

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス くらふと		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 10日 ～ 2025年 3月 3日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11人	(回答者数) 10人
○従業者評価実施期間	2025年 2月 10日 ～ 2025年 3月 3日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 22日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	運動療育に力を入れており、施設内の雲梯や鉄棒などの様々な遊具を通じて雨の日でも体を動かす事が出来る事	様々な遊具や道具を使い、個々の年齢や能力に応じた遊びやトレーニングを行うようにしている。また学校で取り組むような鉄棒やマット運動も遊びの中に取り入れる事で苦手意識を減らす事が出来ている。	長期休暇を利用して定期的な事業所独自の体力測定を行う。また、その結果を持ち帰る事で保護者の方にも子ども達の成長を感じられるようにする。
2	利用者の様子について日々保護者の方々と共有が行えている事	保護者とは療育システムの媒体を使用し常時連絡を可能にしている。 また、その日の様子を書いた文章と合わせて写真や動画も退所後に送り、施設内での様子を見て貰えるようにしている。	InstagramやHP内のブログも更新しており、保護者の方だけでなく第三者の方も見る事が出来るSNSを使用する事で安心して通わせられる施設だと伝えている。
3	ブレイルームとは別に勉強部屋がある事で静かな環境で落ち着いて学習が出来る事	個別学習支援では一人ひとりのファイルを用意し、個々に応じた学習プリントを提供し、得手不得手を支援員が把握出来るようにしている。	学校で習った単元の復習は取り組んでいるが、予習は出来ていない為、予習も出来るように努める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館など地域の子ども達と交流する機会が無い事	今までは事業所内での家族参加型のイベントで利用者さん同士の交流に力を入れていた為。	まずは地域の放課後等デイサービスや相談支援の方、ショートステイの事業所等とコミュニケーションを取るように努め、そこから交流の輪を広げる。
2	外出支援として公園や買い物には行くが公共交通機関を利用した外出支援は取り組めていない事	身近な小学校や公園までの歩き方や徒歩で移動する際の指導に力を入れていた為。	今取り組んでいる公共の大型施設への遠足イベントの際に車ではなく電車やバスを使用する事で自立支援の充実を図る。
3	事業所内での様々な研修体制を整備する事	研修を受けに行った後は報告を兼ねた研修内容の紹介はあるが、各々が持っている資格や得意分野についての研修についての時間は確保する事が出来ていない。	職員事に経験や知識の量も異なるので、経験が浅い職員も安心して支援に当たれるように定期的な研修を行う。